

二〇二〇年一月七日

対峙する白き櫓や菊日和

わかば

狼藉はカメラマンらしコスモス田

よう子

行厨のシートに真先雨蛙

うつぎ

山頂に港を望み秋惜しむ

せいじ

野地藏へどんぐり三つ供えあり

菜々

もぎたての柿頬張りて鋤休め

かかし

中島を泡立草の席卷す

せいじ

山の畑不意に背な打つ木の実かな

うつぎ

蘊蓄の夫が枝豆茹でにけり

よう子

毎週句会秀句・みのある選・二〇二〇年一月八日

通勤の靴が踏み行く木の実かな

うつぎ

秋山路老翁ひとり道普請

せいじ

日に透けてステンドグラス蝶の翅

小袖

園丁の薔薇の剪定潔し

はく子

門に入るや否や菊の香漂へり

わかば

かくれんぼ鬼の迷ひし芒原

かかし